

症例 8

歯周病が原因で、揺れて咬み辛くなった歯を歯周外科処置と補綴処置で歯並びから治した症例。

49才男性 残存歯 $\frac{6-3\ 1}{6} \frac{6}{7} \frac{5}{7}$ は抜歯を行う。

初診時、 $\frac{4\ 1}{2\ 1} \frac{1\ 2\ 4}{1\ 2}$ ($\frac{2}{2}$ 欠損) の揺れが3mm以上、 $\frac{5}{7}$ は5mm。 $\frac{6\ 5\ 3}{6\ 4\ 3} \frac{3\ 5\ 6}{3}$ の揺れが2~3mmで力を入れて咬むことができない。

歯肉の腫れもあり、レントゲンでは上下前歯7本 $\frac{1\ 1\ 2}{2\ 1} \frac{2}{1\ 2}$ の歯槽骨吸収が進み、歯根長の1/3から1/4しか、骨の中に植立していない。このままでは、前歯7本が次々に抜け落ちていく寸前の状態。

咬み合わせは、左上下前歯 $\frac{2}{2}$ が交叉する交叉咬合になっており、この部位でロックしてしまって自由に顎を動かすことができず、無理に動かすとこの2本が揺らされて抜けてしまう危険な状況。

治療するにあたって最初に顎関節症の有無を調べます。

この症例では $\frac{7\ 2}{7} \frac{7}{7}$ 4歯が欠損しているにもかかわらず、顎関節症状が認められないので臼歯咬合(咬合高径)(奥歯の高さのこと)はこのままでいく。

まず全歯牙に、歯周病の進行をくい止めるための徹底した歯周外科処置を行います。さらに歯肉ラインをそろえるため歯肉整形を行います。この治療で歯肉は引き締まり、歯の揺れも改善されますが、① 力いっぱい咬める程でない。② 歯ぐきが引き締まったことで、歯と歯の間のすきまが大きくなってしまった。

③ $\frac{2}{2}$ 交叉咬合で相変わらず顎運動がしにくい。④ 歯並びが悪く気になる。といった点は全く解消されていません。

この①~④を解決するため $\frac{6\ 5\ 3}{6\ 4\ 3} \frac{3\ 5\ 6}{3}$ を固定源にした $\frac{7\ 6\ 5\ 4\ 3\ 2\ 1}{1\ 2\ 3}$ ブリッジと $\frac{6\ 5\ 4\ 3}{1} \frac{1\ 2\ 3\ 4\ 5\ 6}{2}$ 連結冠 ($\frac{2}{2}$ 欠損)の治療に入る。この治療で $\frac{2}{2}$ 交叉咬合を正常咬合にし、歯肉ラインも歯並びもきれいになった最終補綴物(ハイブリッドセラミック)を装着して治療終了。

歯数が不足 ($\frac{7\ 2}{7} \frac{7}{7}$ 欠損)しているため睡眠時のナイトガード(ソフトスプリント)を必ず装着するようお伝えし、定期検診で咬み合わせの変化に応じた咬み合わせの調整と歯石除去を行っています。

このような治療をなさった患者様は皆様大変お喜びになって戴いていますが、この患者様は特に喜びで治療前、後の模型まで御希望なさいましたのでレプリカを作ってお渡ししました。